

2020/10/7

(うとQ世話し 騙されついで)

大新聞、TVなどのマスメディアやネットの記事、それに銀行、証券会社などの金融関係の話がなんとなく信用できない、胡散臭いと感じるのは、それがほとんどポジショントーク(記者や担当者の立場や都合でなされる物言い)だからかもしれません。

要するにその者たちへの利益誘導を巧妙に隠した話し方の中の、どこことなく漂う「巧妙さと隠匿の臭い」に脳ではなく、鼻の方が先に、敏感に反応して。

しかし、当然ながらかく言う自分も含めて自分の立場や都合というものはあるわけです。

そんな折、上述の方々が

「貴方にだけ特別なお話があります。他の方には内緒ですよ」

と、こちらが密かに隠し持っている立場や都合に「さも合わせたか」のように言い寄って来られると、ついつい魔が差してしまうこともあります。

しかし、そのお誘いとリークが破綻したときに、その「最大の味方」はいつの間にか消えてしまっていて、どこにもいなくなっている、というような羽目に突如出くわす事に。

そして

「すべては連中のポジショントークだったただけだ。まんまと引っかかったな。もうだまされないぞ」

といつつ、何度も騙される。

それは、我々が皆「助平根性の持ち主」だからです。

自分だけ、いともた易く「得をしたい」からでしょう。

そして結局騙されるか、大損をする。

ならばそれを防ぐにはどうすればいいのか？

三段論法的にいえば

「騙されたり、大損をしたりするのは自分にポジション(立場や都合)があるから」

で

「話を持ち掛けてくる相手も同じで、更に狡猾である」

ならば

「共通項であるポジションで判断したり動いたりするのを一旦脇に置き、たとえ当座は自分にとって不都合で、耳に痛くても、物事の道理(メカニズム)を学んで、それに従った判断を優先的に行った後、それに従って粛々と行動する」

となります。

ポジション思考を止め、物事のメカニズムに従う。

現時点、そこまでの理屈は頭では、わかるのですが、しかし、それをするのは至難の業。

理由は

「自分が生身の人間で、助平根性満載だから」

です。

となれば

What should I do? (どうしましょう? ドレミファソラシド (↑)、どしたら、よかんべえ (↓)?)

とはいえ、まずは訓練してみますか。

騙されついで、に。